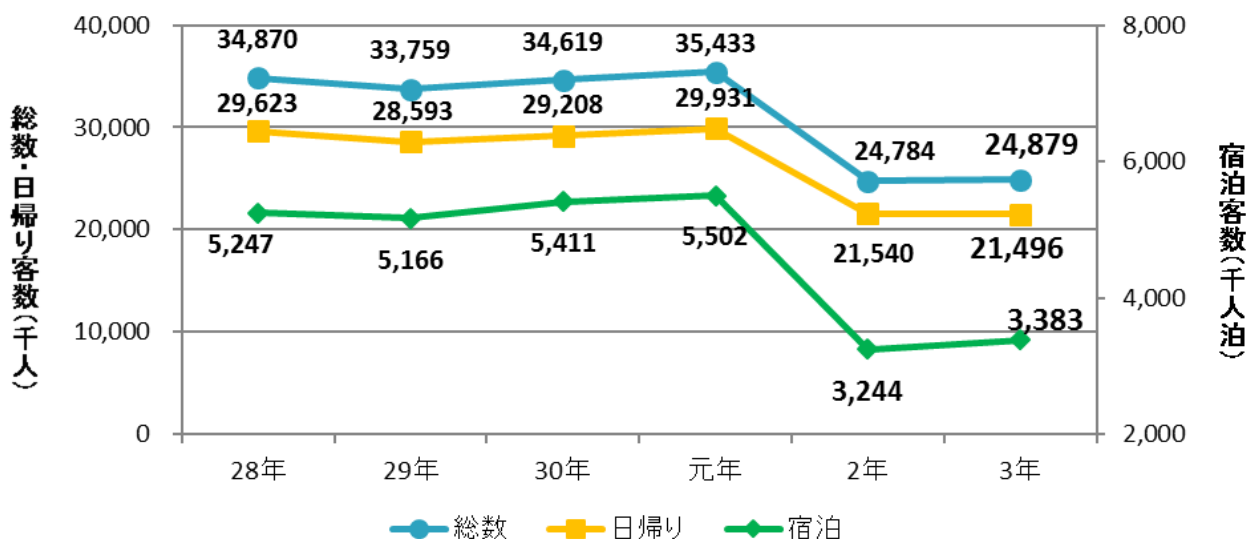


令和4年8月19日提供		
資料提供		
担当課	観光振興課 (動態調査全般)	観光交流課 (外国人観光客)
担当者	畑口・森脇	海出・前坂
電話	073-441-2777	073-441-2788



令和3年和歌山県観光客動態調査(確定値)

- 令和3年観光客動態調査では、観光入込客総数は、約95千人増(対前年比0.4%増)の微増となり、日帰り客数は約44千人減(対前年比0.2%減)となったものの、宿泊客数は約139千人増(対前年比4.3%増)となった。
- 夏季は、「わかやまリフレッシュプラン2nd・3rd」や各種イベントの実施に加え、梅雨明けが前年より早く、7月の4連休も好天であったため回復の兆しが見られ、夏季全体の観光客数は前年比では増加した。しかし、7月下旬以降の感染拡大に伴い、県民への不要不急の外出自粛要請や京阪神エリアにおける緊急事態宣言の発出、お盆前後の台風や長雨の影響により、8月の観光客数は前年を下回った。
- 年末年始は、感染状況が比較的落ち着いていたため、帰省客や県外からの観光客が前年と比べ増加した。年末にかけて実施した「わかやまリフレッシュプラン2nd・3rd」や各種イベントの実施に加え、好天も相まって、前年と比べ宿泊客数・日帰り客数ともに大幅に増加し、特に宿泊者数はコロナ禍前の令和元年比で92.7%まで回復した。
- 外国人宿泊客数は、前年比87.7%減と、「ビジットジャパンキャンペーン」がスタートした平成15年以降、過去最低となった。



(単位: 千人)

	28年	29年	30年	元年	2年	3年	対2年増減	対2年比	対元年比
総数	34,870	33,759	34,619	35,433	24,784	24,879	95	100.4%	70.2%
日帰り	29,623	28,593	29,208	29,931	21,540	21,496	▲ 44	99.8%	71.8%
宿泊	5,247	5,166	5,411	5,502	3,244	3,383	139	104.3%	61.5%

外国人宿泊客数について

令和3年の外国人宿泊客数は、県全体で前年比87.7%減(令和元年比98.8%減)の5,524人泊となり、「ビジットジャパンキャンペーン」がスタートした平成15年以降で過去最低となった。

●主なポイント

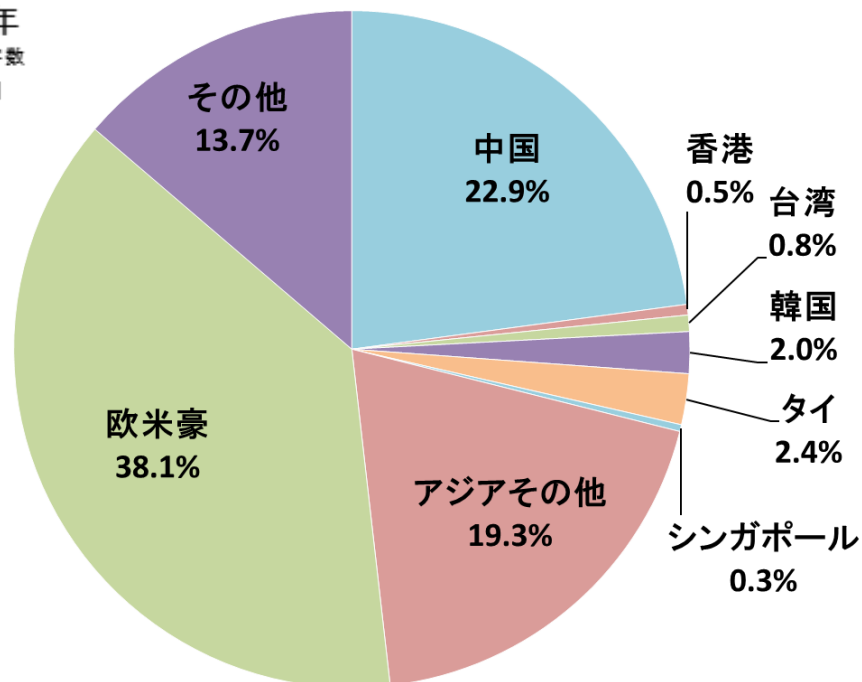
令和元年に過去最高を記録した外国人宿泊客については、令和2年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響を大きく受け、前年比大幅減となり、初めて1万人泊を割り込んだ。

○県内外国人宿泊数の推移 単位:人泊



○県内外国人宿泊客数のシェア(国・地域別)

2021年
外国人宿泊客数
5,524人泊



令和4年度の取組について

大阪・関西万博に向けた機運醸成・誘客促進 【ダイヤモンドイヤー】

今後は、観光産業にとって追い風となるビッグイベントが目白押しであるため、「弘法大師御誕生 1250 年記念事業」による誘客促進、「世界遺産登録 20 周年」に向けた機運醸成、「大阪・関西万博」に向けた受入体制の整備や周遊促進に係る取組を推進する。

「蘇りの地、わかやま」キャンペーン

新型コロナウイルス感染拡大による影響からの回復を着実なものとするため、旅行割引支援「わかやまフレッシュプラン S」(県民割・ブロック割)や「わかやまフレッシュプラン S ワイド」(全国旅行支援)などの実施による旅行需要の喚起を目的とした「蘇りの地、わかやま」キャンペーンを推進する。



「水の国、わかやま。」「アウトドア観光」

「水」を切り口に、県内の絶景や温泉、清らかな水と一体となって遊ぶアクティビティ体験などを楽しむスタンプラリー等を実施することで、周遊を促進する。

また、自然に触れ合うアウトドア志向が高まっていることを受け、県内の体験メニューのオンライン予約できるサイト「わかやま遊び」や新たに制作する「キャンプ」を軸としたポータルサイト等を活用し、アウトドアコンテンツの魅力発信を行い、誘客を促進する。



サイクリング王国わかやま

県内約800kmにわたるサイクリングロードと海・山・川の絶景や温泉、食などを組み合わせた旅の楽しみ方を、県観光情報誌「紀州浪漫」や公式 Facebook 等により情報発信する。

また、サイクリストに優しい宿やサイクルステーションなど受入体制の整備を促進する。さらに、5回目となる「WAKAYAMA800モバイルスタンプラリー」に、従来の「観光地巡り」に「競技性」の要素を加え、初心者から上級者まで県内外の様々なサイクリストが楽しめるように一新するなど、周遊を促進する。



わかやま歴史物語

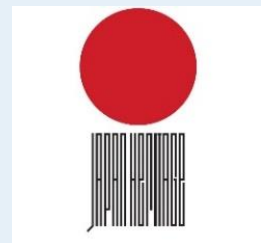
県内の豊富な歴史や文化遺産と、食・温泉・体験などを組み合わせた100の旅モデルを「わかやま歴史物語」としてまとめ、メディアや専用WEBサイトなどを活用して、情報発信し、誘客を促進する。

また、「わかやま歴史物語」のうち、神話から安土桃山時代に活躍した人物にゆかりのある26の旅モデルを巡るモバイルスタンプラリーを実施し、周遊促進による滞在時間の延長、消費拡大に繋げる。



日本遺産を活用した誘客促進

本県に関連する7件の日本遺産「鯨とともに生きる」、「絶景の宝庫 和歌の浦」、「『最初の一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅」、「『百世の安堵』～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～」、「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」、「『葛城修験』一里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」、「女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」について、認知度向上を図り、誘客を促進する。



インバウンド受入環境整備

ゴールデンルートに集中している外国人観光客をターゲットに、多様な交通手段を活用した観光モデルルート情報を提供し、大阪や京都、東京都からのプラスワントリップを目指した広域周遊ルートの構築を進める。

また、近隣県と連携し、交通アクセスの改善や多言語案内表示の整備など、県域をまたぐ統一的な受入環境の整備を進めるとともに、デジタルを活用した観光周遊環境の整備や、多言語電話通訳・簡易翻訳サービスの実施、高野・熊野地域通訳案内士の育成等、受入環境の充実を図り、個人で訪れた外国人観光客がストレスなく県内を広域に周遊できるよう取り組む。

